



# Jomon Art Project

茅野市民館10周年記念事業 縄文アートプロジェクト

2015年11月19日(木) - 23日(月・祝)

茅野市民館

## 舞台公演「となりの縄文人」

**会場** マルチホール

	開場	開演
<b>日程</b> 2015年11月22日(日)	13:00	13:30
22日(日)	18:00	18:30
23日(月・祝)	13:00	13:30

※23日13:30より記念セレモニー「茅野市民館10周年を迎えて」を開催します

## アート・インスタレーション

**日程** 2015年11月19日(木) - 23日(月・祝)

**会場・時間** 企画展示室、イベントスペース(10:00-18:00、最終日17:00まで)  
ロビー、中庭など(9:00-22:00、最終日17:00まで)

催事に合わせ、飲食交流のコミュニティスペース「縄文マルシェ」を開催します

Jomon Art Project

茅野市民館10周年記念事業 縄文アートプロジェクト

10<sup>th</sup> Anniversary

茅野市民館10周年記念事業 縄文アートプロジェクト実行委員会

## 茅野市民館 10 周年記念事業 縄文アートプロジェクト

「市民一人ひとりが主人公になれる場」として、2005年に誕生した茅野市民館 (Chino Cultural Complex)。「市民の館<sup>やかた</sup>」である文化複合施設で、この地に暮らす人たちが、さまざまなものごとに触れ、感じ、思い描き、知恵を分かち合い、関わり合い、それぞれの力を発揮して、文化・芸術の“ものづくり”を実践してきました。

「縄文アートプロジェクト」では、2015年に10年の節目を迎えた茅野市民館で、茅野の源にある「縄文」「八ヶ岳」をテーマに、市民力による表現・創造を発信します。市民が3年がかりで紡いできたパフォーマンス・アーツ(実演芸術)の公演と、アート・インスタレーション(アート作品の展示)を11月に開催します。また、催事に合わせ、飲食交流のコミュニティスペース「縄文マルシェ」を開き、皆さまをお迎えします。

おおらかに天を仰ぐ八ヶ岳のふもとから、五千年の時を継いできた縄文のDNA=遺伝子。過去と未来をつなぐ「いま、ここ」からのメッセージをお届けします。

### 茅野市民館

#### (Chino Cultural Complex)

茅野市民館は、構想段階から市民が直接参加して2005(平成17)年10月にオープン。劇場・音楽ホール、美術館、図書室、多様な用途のある施設やスペース、レストランなどを併せ持つ文化複合施設の特徴を生かし、多彩な表現やアートと出会い、人と人がつながる「市民の館<sup>やかた</sup>」として、市民協働を実践してきました。

### 《縄文》《八ヶ岳》

茅野ならではのアート表現・創造を、市民の力で実現しよう…という思いのもと、まずはいろいろな人が集って交流する場として、2013年夏に茅野市民館いどばた会議「ちのばた」を開催しました。そこで「茅野といえはなんだろう?」という要素を出し合ったところ、共通するテーマとして浮かび上がったのが《縄文》《八ヶ岳》でした。愛着のある普遍的な2つのテーマをもとに、翌2014年冬に、続編として縄文の世界観や、八ヶ岳山麓の縄文文化について見識を深める2回の講演と、物語・戯曲・シナリオをつくる基本についての講演を実施し、縄文アートプロジェクトへの足掛かりとしました。2015年11月の縄文アートプロジェクトでは、八ヶ岳山麓に脈打つ《縄文》の核となる部分を、さまざまな表現の形にします。

# 舞台公演「となりの縄文人」

[コンセプト]

## ともに生きる

自然と、隣人と、死者と、そして生まれくる子らと…

[スタッフ]

構成・演出：西田豊子

音楽：神山純一

[出演・スタッフ]

市民参加者 50 名 (2015 年 9 月 12 日現在)

地域の表現者 他

### 作品について

2015 年 5 月の参加者募集から、ともにアイデアを出し合い、クリエイティブな時間を共有してきた仲間たちを中心に、さまざまな表現活動を楽しむ市民や、地域ゆかりの表現者が集結する舞台公演。八ヶ岳のふもとに位置するこの地で暮らす、一人ひとり、かけがえのない人生から発想された、「いま」と「縄文」をつなぐ物語です。

日時	2015 年 11 月 22 日 (日) 13:00 開場、13:30 開演 18:00 開場、18:30 開演 2015 年 11 月 23 日 (月・祝) 13:00 開場、13:30 開演
会場	茅野市民館 マルチホール
チケット料金	〈全席自由・前売〉 一般 2,000 円、高校生以下 1,000 円 [友の会会員] 一般 1,800 円 高校生以下 900 円 ※日時ごとに販売 ※当日各 300 円増
チケット発売日	2015 年 10 月 10 日 (土)

## 舞台公演「となりの縄文人」

# 拝啓 となりの縄文人さま どうすればもう一度 あなたに会えますか？

[あらすじ]

秋の休日に八ヶ岳の山頂めざす若い男女。

激しい口論の末、女性が足を踏み外して転落！

引き摺られて転落した青年が気付けば、傍らに見知らぬ高校生が…。

突如、一群の女達が現れ、倒れていた若い女を救護し、怒濤の如く走り去る！

後を追うと、そこは縄文時代の環状集落。「お客人！」と呼ばれ祭に誘われる。

…秋分と新月が重なる「祭」の夜。土中に眠る「女神土偶」が蘇り、

歓喜と祈りの歌舞が最高潮に達したその時。「女神土偶」が消えた…！

縄文の風わたる遺跡に佇む、車椅子の老考古学者と孫娘を案内役に。

…謎が謎を呼ぶ・愉快痛快・茅野発“縄文ファンタジー”開幕です。

### 「縄文」と「いま」をつないで

この作品は、茅野市民館に集う参加者たちが専門家たちのサポートを得ながら、地域ゆかりの表現者が集結する舞台に結実させた、市民発信型の創作劇です。

まず、茅野と言えば「縄文」と「八ヶ岳」！

5000年もの時を遡り、八ヶ岳山麓に「縄文王国」とも称される豊かな文化を育んだ先人たちの哲学と叡智を、茅野から世界に発信するとしたら…？

2015年5月以来、創作ワークショップを通じて、全ての場面やセリフ、タイトルまで、参加者の発信とディスカッションを元に、丁寧に紡ぎ続けました。

浮かび上がったコンセプトは、「ともに生きること」です。

地球や自然と。となりの国々や隣人達と。時の彼方に去った死者達と。新たに生まれ来る子ども達やその未来と。互いをたいてつに、ともに生きたい、と。

…八ヶ岳のふもとに位置するこの地に暮らす、ひとり一人のかけがえない「いま」と「縄文」をつないで。…お楽しみ頂けたらこれ以上の喜びはありません。

(構成・演出 西田豊子)

# アート・インスタレーション

[コンセプト]

八ヶ岳山麓に脈打つ「縄文」を、  
多彩なアート表現で

展示期間	2015年11月19日(木)～23日(月・祝)
会場・時間	企画展示室、イベントスペース (10:00～18:00、最終日17:00まで) ロビー、中庭など (9:00～22:00、最終日17:00まで)
料金	無料

## 関連企画 ワークショップ JOMON ART CITY

日時	2015年11月15日(日)10:00～12:30				
会場	中庭ほか	定員	25名	料金	無料
支柱や網、カラフルなテープを使って、グループごとに小さな家をつくり、茅野市民館の中庭に「まち(CITY)」をつくるワークショップ。制作した作品は、アート・インスタレーションで展示します。					

## アート・インスタレーション 作品募集

①作家部門 ②一般部門 (詳細はチラシをご覧ください)

## 縄文マルシェ

催事に合わせて開催する、飲食交流のコミュニティスペース「縄文マルシェ」では、地元飲食や地産地消の農産物、クラフト、縄文グッズなどが集まります。

日時	2015年11月22日(日) 11:00～20:30 2015年11月23日(月・祝) 11:00～17:00
会場・時間	東広場、レストラン(カフェ アンダンテ)、事務室前、ロビーなど(予定) 出店数：22日 13店舗、23日 11店舗(2015年10月14日現在)

# 茅野市民館 10周年記念事業 縄文アートプロジェクト ヒストリー(3年間の歩み)

## 2013(平成 25)年度

2013年  
7月-8月

### 茅野市民館いどばた会議「ちのばた」(全3回)

2015年の茅野市民館開館10周年に向けて、市民が主体となる市民の作品・表現の創作を視野に、集い、学び、おしゃべりする、茅野市民館いどばた会議「ちのばた」。2013年夏《茅野といえは》をテーマに参加者がイメージを出し合う3回の「ちのばた」を開催し、《縄文》《八ヶ岳》が共通のテーマとして出てきました。



2014年  
1月-2月

### 「ちのばた」つづき(全3回)

《縄文》と《八ヶ岳》の題材をもとに、上演する物語をつくることを目指して集い、学び、おしゃべりする「ちのばた」つづき〈縄文ファンタジーをつくろう!〉講演の巻。2014年冬に、縄文文化全般についての2つの講演と、物語をつくる基本を知るワークショップを実施しました。



## 2014(平成 26)年度

2014年  
4月20日

### 茅野市民館 10周年記念事業

#### 縄文アートプロジェクト(キックオフ・イベント) トークイベント〈縄文ファンタジーをつくろう〉

《茅野市民館 10周年記念事業 縄文アートプロジェクト》のスタートを飾るトークイベント。茅野市や縄文文化についてゆかりのある方々をトークゲストに迎え、茅野市民館の取り組みに関わりのある、さまざまなジャンルの専門家の方々や市民の皆さんと、八ヶ岳山麓ではぐくまれた《縄文》について語り、未来につなぐ大切なことがらについて、思いをめぐらせました。



6月30日

### 茅野市民館 10周年記念事業

#### 縄文アートプロジェクト実行委員会 設立総会

茅野市民館が開館10周年を迎える2015年の11月に、茅野をはじめ八ヶ岳山麓に栄えた「縄文」をテーマに、さまざまな人がともにつくるパフォーミングアーツ(実演芸術)やアートの表現を形にする創作に向け、「茅野市民館 10周年記念事業 縄文アートプロジェクト実行委員会」を設立しました。

＝設立趣旨より＝

「ここまでの歩みをもとに、茅野市が掲げる「縄文プロジェクト」とも呼応し、縄文人の生き方「友愛・冒険心・創造の精神」などを、この作品を通じて表現したいと考えます。縄文を楽しみ、学び、この地に長きにわたって繁栄した縄文文化を、現代社会のなかで改めて見つめなおし未来に受け継ぐ機会とします。」



7月ー 茅野市民館 10周年記念事業  
縄文アートプロジェクト実行委員会  
企画室会議

縄文アートプロジェクトの取り組みについて、企画室メンバーが集まり、協議する会議を定期的に行っています。



7月ー 脚本研究会

茅野市民館で2014年6月に開講した、ステージともにつくろう！「脚本を創ろう！」（講師：西田豊子さん）の参加者を中心に、縄文アートプロジェクトの作品づくりに関連して、アイデアを出し合い、ストーリー、プロット（ストーリーの一連の出来事）作成を体験するミーティングを、月1回ほど開催しました。2015年5月以降は実作に向けて取り組んでいます。



9月ー10月 「縄文のうた」詩の公募

縄文アートプロジェクト創作のテーマソングとなる「縄文のうた」の詩を一般公募しました。「縄文、八ヶ岳など、茅野市の自然や歴史・文化などを題材とするもの、またはそれらをイメージできるもの」を対象に2014年9月1日から10月15日まで募集。茅野市をはじめ諏訪地方を中心に小学4年生～80歳代、60名から73編の応募がありました。



12月13日 「縄文のうた」完成発表会

実行委員会企画室、構成・演出の西田豊子さん、作曲の神山純一さんによる審査で、2編の詩（『つないで』『まあるい星のまあるいムラで』）を「縄文のうた」に選定。神山純一さんの作曲による2曲を、「縄文のうた 完成発表会」として12月13日に市民の皆さんや実行委員会有志、約40名がステージで披露しました。

＝「縄文のうた」の活用について＝

茅野の誇る縄文文化の魅力が込められた「縄文のうた」が、プロジェクトを超えて歌い継がれていくことを願い、さまざまな活用に取り組んでいます。

\*「縄文のうた」収録CD作成＝関係機関、教育機関に頒布。一般販売。

\*アレンジバージョンによるダンス作成＝ワークショップ開催。



2015年  
2月20日

「縄文のうた」踊りワークショップ  
みんなまあるく踊ろうよ！

「縄文のうた」のアレンジバージョンで身体表現を楽しむ、踊りのワークショップを開催。小笠原大輔さん（岡谷市出身、撫肩GUYDANCE 主宰）振付による『まあるい星のまあるいムラで』よさこいバージョンを、楽しく踊りました。



## 2015(平成 27)年度

2015 年  
4月5日

### 「縄文のうた」踊りワークショップ みんなまあるく踊ろうよ！2

「縄文のうた」のアレンジバージョンで身体表現を楽しむ、踊りワークショップの第2弾。前回の踊りに加え、新たに『つないで』フラダンスバージョンを、酒井朝美さん (Halau Lele Koa' e 主宰)の振付で踊りました。



4月26日

### 茅野市民館 10 周年記念パーティー

#### 「じよもパ」

11月の創作上演・発表を前に、より多くの地域住民の皆さんに茅野市民館に親しんでいただき、創作活動への参加の契機となるよう、新年度の幕開けとなる4月、「市民館の満10歳を祝う誕生パーティー」をコンセプトにした「茅野市民館10周年記念パーティー じよもパ」を開催。市民館利用者や中高生によるステージ発表、ダンス体験、演劇で遊ぶワークショップ、アート展示など参加型の内容を、企画室メンバーとCHUKO らんどチノチノの中高生が中心となり、企画制作しました。



## メイキング(パフォーミング・アーツの創作)

### パフォーミング・アーツ(実演芸術)創作活動

2015 年  
5 月 10 日  
11 日

#### オリエンテーション(参加者募集説明会)

参加の動機は「いろいろあって…みんな良い!」

##### ■茅野市民館の10年間について

辻野隆之

(茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造 代表取締役社長)

この劇場を地域の皆さんと一緒につくってきた 10 年でした。「11 年目に、

なにか形になるものをみんなと一緒につくらない?」という市民のみなさんの声を受け、27 年度 11 月、皆さんと一緒につくってきた市民館づくりの通過点として、表現のおひろめをしたいと思っています。地域ならではの劇場、そこで生まれてくる地域ならではの作品を目指して、皆さんと一緒に楽しんで過ごしていきたいです。

##### ■創作方法について

西田豊子(劇作家、演出家)

すべてのふるさとであり、命をはぐくむ象徴のようなものが八ヶ岳であり、5,000 年前から続く人の営みが縄文なのだろうと感じています。これから、ワークショップを通して、出演者もバックステージも発信しアイデアを出し合い、すべてを一緒に創作していきたいと思っています。人が生きていて、心が躍り、動き、葛藤を乗り越え、変化が生まれます。その感動をだれかとわかちあいたいという思いから、おしゃべりが始まり、身振り手振りがついて、抑揚がついて、再現され、伝えたいというイメージから演劇が生まれたと思います。一人ひとり、生きてこられたかけがえのない人生、ドラマが原石として光り輝き存在しています。それを紡げば、素晴らしい作品になると確信しています。



### 参加の動機はみんな違ってみんな OK !

アートの Play(あそび)から Play(劇)創作へ 「八ヶ岳」「縄文」の地から発信しよう!

2015 年  
5 月  
6 月  
7 月

#### 創作活動 第 1 ステージ

「体験型ワークショップで想像・創造力をパワーアップ!」  
〈仲間〉と出会い、〈感性〉と出会うワークショップ

##### ◎発想力・想像力

五感を活用する→イメージをアクションへ

オノマトペをつなげるドラマづくり(サウンドドラマ)

##### ◎何を感じ、どう行動するか

縄文時代にはどんな危機があって、どんなふう生き抜いただろう…と、参加者で出し合った 6 つの「危機」を題材に、グループごと決定的瞬間をとらえた現場写真を想定して形をつくってみました。〈いつ、どこ、だれ、なに、なぜ、どのように〉の 5W1H で、「何を感じ、どうしようとしているのか」を形にしました。

##### ◎物語のはじまり

これまでのワークをもとに、それぞれのうちにある創作のヒントと素材を、〈だれ、どこ、なに〉のアイデアを出して探りました。



8月  
9月

## 創作活動 第2ステージ

「参加者のアイデアや発信をもとに、  
ワークショップで作品を創作！」

### ◎主人公

10～70代の世代別に主人公をつくる。名前・年齢・特徴・成育歴・課題・目的などを出し合い、人物像を浮かび上がらせました。現代から縄文への扉を開ける瞬間を(どこで、どうして、どのように)を具体的に表現して発表しました。

### ◎場面づくり

- ・火を守る人
- ・信仰と祭り(オベリスク、土偶)
- ・黒曜石(他地域との交流・採掘する人)
- ・土器とくらし(食糧)
- ・自然・大地

キーワードについて調べる→

ディスカッション・発表・共有→

興味と直感で場面づくり

### ◎タイトル

これまでの創作から個々にタイトル案を出し合い、60の候補の中から「となりの縄文人」にタイトルが決定しました。

「作品をつくる時は、こんなふうに話し合いを積み重ねていく。これだけ深く共有できていれば、どんな場面や人物像がきても、深まったり広がったりすることはあれ、小さくなったりすることはないですよ。」

(西田豊子さん)



10月  
11月

## 創作活動 第3ステージ

「専門家とともに完成度を高め、いよいよ舞台発表へ！」

7月

## じょもっと活動

創作活動のうち、表現ごとに練習したり、舞台づくりや広報など、分野ごとの活動もすすめています。



---

## 参加者のことば

---

「表現するってこんなに楽しいんだ」

「自分にはできない、だめだと決めつけていたけど、私にもできるかなと思った」

「皆さんの表現力や積極性に感動した」

「初めて参加して、初めてお会いする人ばかりだけど、皆さん素敵な人たちだなあ。

皆さんと一緒につくりたいなあと考えた」

「知らない人といろんなワークをして、初めて会ったのにそういう感じがなくて、近く感じて楽しかった」

「こんなにみんなでコミュニケーションとれるのがすごい」

「非日常に触れて楽しかった」

「即興でやるのは大変かなと思ったけど、楽しかった」

「体力・気力・集中力・想像力、すごい使っていると思う」

「月曜から金曜まで仕事と家の往復。こんなにワクワクする時間をここで持てるのがとても楽しい」

「当時どんなに命が奇跡的につながっていったらう。自分たちの力が及ばないところ。祈り、大事なものをつないでいくような思いを感じた」

主催：茅野市民館 10 周年記念事業 縄文アートプロジェクト実行委員会

共催：茅野市、茅野市教育委員会

後援：茅野市芸術文化協会、茅野商工会議所、茅野ライオンズクラブ、茅野ロータリークラブ、諏訪大社ロータリークラブ、(一社) 信州・長野県観光協会、諏訪地方観光連盟、(一社) ハケ岳ツーリズムマネジメント、信州諏訪農業協同組合、JR 東日本 長野支社、アルピコ交通株式会社、信濃毎日新聞社、長野日報社、信州・市民新聞グループ (7 紙)、株式会社長野こまち、月刊ぶらざ、NHK 長野放送局、SBC 信越放送、NBS 長野放送、TSB テレビ信州、abn 長野朝日放送、エルシーブイ株式会社、FM 長野

#### お問い合わせ

茅野市民館 10 周年記念事業 縄文アートプロジェクト実行委員会  
事務局：茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造

〒391-0002 長野県茅野市塚原一丁目 1 番 1 号

Tel : 0266-82-8222 Fax : 0266-82-8223

休館日：火曜日 (火曜日が祝日の場合その直後の休みでない日)

 公式ホームページ <http://www.chinoshiminkan.jp/jomon/>

  フェイスブック・ツイッター 縄文アートプロジェクト で検索

※最新情報をお届けしています

 ブログ <http://jomonartproject.blogspot.jp/>

※これまでの取り組みを紹介しています